

防災フェスタ in あいそめ大通り

NPO法人コドモ・ワカモノまちing

NPO法人「コドモ・ワカモノまちing」は、まち全体を子供にとっての「安心・安全な居場所」として復活させると共に、子供をとりまく環境を子供たちと一緒に創造し、地域の一員としての意識や、まちへの愛着を育むことを目的として、幅広い活動を行っています。そのテーマは「感育」。五感を使って、感動・感性・感謝の心を育みます。

文京区の「藍染大通り」を会場として開催された「防災フェスタ」は、ふと足を止めて参加したくなるような日常風景の中で、五感をたっぷりと使いながら楽しく学ぶイベントでした。

実施日時 平成23年11月27日（日）10:00～14:00

実施場所 文京区藍染大通り

藍染町会が主催して、定期的に行っている歩行者天国、今回は防災をテーマとして開催されました。消防署からは「はしご車の体験乗車」や「救急救護訓練」、町会の「すいとん」や「焼きそば」の出店、新鮮な野菜を売るコーナーもありました。

このイベントに、今回はNPO法人「コドモ・ワカモノまちing」も参加しました。

まず登場したのは、改造したトラックの「移動式子ども基地」です。この基地には、数えきれないほどのグッズが入っています。大通りには「救助」コーナーや「積み木タワー」のコーナー、昔のおもちゃコーナーなどができました。

この「移動式子ども基地」は、東日本大震災の被災地にも何回も行っているため、車体には一緒に遊んだ子供たちからの手書きメッセージが隙間なく書かれていました。



「あ、地震で埋まってしまった人がいるよ！みんな助けよう！」という声で集まった子供たち。軍手をはめて、まずは人の上に重なった物を協力して移動します。そしてシャツと布で担架をつくり、救護コーナーまで運びました。



次は、応急手当の練習。ここでは日本手ぬぐいが活躍します。手ぬぐいは、縦に裂いて使うことができるので、ダンボールを丸めた添え木を、骨折した腕などに固定することができます。



積み木タワーのコーナー

間伐材を使った積み木を積み上げて、揺れた時にどのタワーが先に倒れるかを予想します



下の板を揺らすと、次々に倒れます。



なぜか倒れないタワーが・・・この理由は、タワーの板の下に、ラップの芯を使った免震装置があったからでした。



ベーゴマの樽のまわりに、四世代が集まって賑やかに教え合っています。いざという時には、地域に顔のわかる人がいることで、助け合いが広がります。町の人たちが子供たちの育ちを見守りながら、安全な町づくりにつながっていくイベントでした。

支援団体情報 (URL 等)

NPO法人コドモ・ワカモノまちing

<http://www.k-w-m.jp/index.html>